

より快適な動画撮影のためにおすすめしたいこと

温度上昇にともなう撮影時間の制限

EOS R5は、フルサイズかつ高ビットレート出力が可能なセンサーを使用しており、オートフォーカスをしながらかの高解像度及び高フレームレートの動画機能を実現しております。そのため、動画撮影中に記録時間を制限する熱を発生することがありますが、CMOSセンサー及びキーデバイスを保護するため、ボディ内部の温度が上昇した場合には、動画記録を停止し、カメラをシャットダウンする仕様になっています。

記録画質	記録モード	連続撮影可能時間※1
8K30p	8K30p	最大約20分
	8K30p RAW	最大約20分
4K120p	4K120p	最大約15分 ※2
4K60p	4K60p クロップ無	最大約35分
	4K60p クロップ 高画質 (5.1Kオーバーサンプリング)	最大約25分
4K30p	4K30p クロップ無	熱による制限なし
	4K30p クロップ無 高画質 (8Kオーバーサンプリング)	最大約30分
	4K30p クロップ 高画質 (5.1Kオーバーサンプリング)	熱による制限なし

※1 連続撮影可能時間。（23℃環境、コールドスタートからの開始）

撮影前にLV待機をしていた場合、環境温度が高い場合、撮影可能時間が更に短くなる場合があります。29分59秒を超える連続記録は一旦録画が停止されますのですぐに再開した場合の時間を表記しています。

※2 ハイフレームレート動画では7分30秒で一旦録画が停止されます。すぐに再開した場合の時間を表記しています。

待機時間による撮影可能時間のイメージ

カメラの電源OFF後の待機時間（カメラ内の温度低下のための時間）によって、次回の撮影可能時間が異なります。

- ・8K 30P 待機時間10分→撮影可能時間3分
- ・8K 30P 待機時間20分→撮影可能時間8分
- ・4K 60P 待機時間10分→撮影可能時間10分

※ 熱により録画が中断した際や、撮影が一旦完了し再度撮影を待っている場合、カメラの電源をOFFにして熱を逃がすことをおすすめします。

※ 発熱の大きいモードでは、熱により中断した場合、カメラを放置した時間に対して撮れる時間の方が短くなる場合がありますのでご注意ください。

※ 待機時間、撮影可能時間は23℃環境、コールドスタートからの開始時です。

対策として本製品では下記の熱対策を行っております。

- ・マグネシウム合金をボディに採用することで内部部品から放熱
- ・CMOSセンサーやDIGICXプロセッサのパワーマネージメントの最適化による省電
- ・待機時の発熱を抑える「温度上昇緩和機能」を搭載

温度上昇緩和機能

温度上昇緩和を「入」設定時、撮影待機状態においてカメラ内部温度上昇を抑制するため、動画撮影待機中、一時的に解像度や表示フレームレートを自動で変更します。

この緩和設定に加えて、カメラの電源をこまめにオフにすることやカメラを直射日光の当たらない場所に置くことをおすすめします。外部ファンを使用して熱を放散することができます。また解像度が不必要なシーンではオーバーサンプリングでないモードを使用すると、オーバーサンプリングモードに比べて撮影時間が伸びる可能性があります。

録画開始前に、その時点でのカメラの温度や設定されている記録モード等様々な条件を基に、録画可能時間の目安を表示することができますので、撮影時間を計算しながら撮影することができます。